

平成 29 年度社会福祉法人桐友学園事業報告

平成 29 年度においても「主としてこの地域に在住する（知的）障害児・者のニーズに幅広く応え、質の高い支援をもって、ひとり一人の利用児・者のかけがえのない人生が充実したものとなるよう支える」ことを運営の基本とし、①質の高いサービス（の担い手） ②適切かつ適正な組織マネジメント ③安定した経営基盤を経営の柱として法人の経営・運営を行った。

また「社会福祉法」、「児童福祉法」、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」、「児童虐待の防止等に関する法律」、「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」、各「運営基準」その他関係法令を遵守し、コンプライアンスに基づく運営に努めた。

法人役員一覧

平成 30 年 4 月 1 日現在

理事	6 名	理事長 佐藤嘉二 秋元学 新福麻由美 飯塚秀一 安田悦子 市岡武
監事	2 名	羽深英男 小栗一徳
評議員	7 名	理事及び監事任期 平成 30 年度に関する定時評議員会終結時まで 佐野恒夫 中村幸夫 室井三千代 横尾好永 堀内邦夫 大出正信 小林充 評議員任期 平成 32 年度に関する定時評議員会終結時まで

第 1 概要

- ① 改正社会福祉法が平成 29 年 4 月に本格施行され、この社会福祉法人制度改革に対応するため準備を進めてきた定款等に基づき、評議員選任・解任委員会による新評議員の選任等の法人組織体制の基幹における改編を行った。また、新評議員による定時評議員会を開催し、理事・監事の選任、計算書類の承認を行い、財務諸表、現況報告、役員等報酬規程をインターネット上に公表し、地域社会へ貢献するため地域における公益的な取組を実施した。
- ② 3 施設とその事業を通じて、幅広く地域等の（知的）障害児・者の多様なニーズに応え、適切に支援するよう努めた。
- ③ 本年度も地域に開かれた施設運営をめざし、地域から理解されるだけでなく、法人も地域に協力し、地域に貢献するという双方向的な地域関係の構築をめざした。
このため地区社協、ふるさと協議会等に施設を開放し、会議や行事の開催に協力した。また地域の行事に積極的に参加するとともに会場設営、機材の貸し出し等に協力した。
- ④ 柏市立青和園の第二期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日）指定管理を受託し、第一期 5 年間の実績をもとに、より一層充実した運営を目指して第二期 2 年目に取り組んだ。

第 2 施設経営

千葉県・東京都・各市より事業所指定及び委託を受け次の施設を経営した。

ア 児童発達支援施設 桐友学園

(1) 障害児入所施設桐友学園	定員 30人
(2) こども生活支援センターきりとも(短期入所)	” 3人
(3) こども療育センターきりとも「さくらんぼ」(児童発達支援事業)	” 10人
(4) こども療育センターきりとも「わくわく」(放課後等デイサービス)	” 10人
(5) こども療育センターきりとも「保育所等訪問支援事業」	—
(6) こども療育相談センターきりとも(相談支援事業)	—

イ 障害者支援施設 沼南育成園

(1) 施設入所支援事業	定員 80人
(2) 生活介護事業	” 120人
(3) 就労継続支援B型事業	” 20人
(4) 就労移行支援事業	” 6人
(5) 短期入所事業	” 22人
(6) 日中一時支援事業	” 10人
(7) グループホーム大津ヶ丘(共同生活援助事業) 6住居	” 33人
(8) グループホーム大津ヶ丘(短期入所事業)	” 2人
(8) サポートセンター沼南(相談支援事業)	—

ウ 多機能型事業所 柏市立青和園

(1) 生活介護事業	定員 21人
(2) 就労継続支援B型事業	” 29人

第3 理事会・評議員会

平成29年度は次の通り、理事会・評議員会を開催し、諸案件を審議・議決して、適正な法人経営及び運営に努めた。平成29年5月、6月、9月、12月、平成30年3月に開催。(理事会5回、評議員会1回開催)

第4 地域における公益的な取組

地域共生社会の実現に向け、積極的に地域社会に貢献するため以下の公益的取組を行った。

- (1) 地域の人々が集まりコミュニケーションがとれる場を目指し、オリジナルのトートバックを作成するワークショップを開催した。
- (2) 短期入所中も普段通っている日中活動事業所に通所することにより、地域生活(家庭生活)と同等の生活を送り、地域生活が継続できるように、送迎加算の対象外である日中活動事業所への送迎を低額で行った。

第5 苦情解決(利用者相談窓口)の状況

サービス点検調整委員は、施設内を視察・点検するとともに報告書等を確認し、また利用者・者等から要望等を聞き取り、主として毎月第2土曜日に開催されるサービス定例点検調整委員会議において、改善すべき事項等について法人・施設に対して事情聴取、指摘、助言を行い、これを受けて法人・施設は改善を図った。なお定例会議には監事も同席した。

平成29年度第三者サービス点検評価委員

委員 江澤嘉男氏 今道勝洋氏 渡辺俊子氏

苦情解決責任者 新福桐友学園、秋元沼南育成園、飯塚柏市立青和園各施設長。

担当窓口 各施設に担当職員を置き、苦情解決等が円滑に進むよう努めた。

平成29年度社会福祉法人桐友学園決算報告

貸借対照表

(単位円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	625,576,899	流動負債	41,661,013
固定資産	1,307,275,634	固定負債	72,360,000
(基本財産)	1,115,559,633	負債の部合計	114,021,013
(その他の固定資産)	191,716,001	純資産の部	
		基本金	105,283,112
		国庫補助金等特別積立金	579,636,115
		その他の積立金	87,600,000
		次期繰越活動収支差額	1,046,312,293
		純資産の部合計	1,818,831,520
資産の部合計	1,932,852,533	負債及び純資産の部合計	1,932,852,533

資金収支計算書

(単位円)

勘定科目		金額	
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	15,895,410
		障害福祉サービス等事業収入	1,050,814,096
		経常経費寄附金収入	2,067,595
		借入金利息補助金収入	791,604
		受取利息配当金収入	10,790
		その他の収入	21,759,317
		流動資産評価益等による資金増加額	0
		事業活動収入計(1)	1,091,308,812
	支出	人件費支出	784,474,420
		事業費支出	134,152,180
事務費支出		106,663,715	
就労支援事業支出		15,820,161	
利用者負担軽減額		0	
支払利息支出		1,125,750	
その他の支出		12,106,260	
流動資産評価損等による資産減少額		161,705	
事業活動支出計(2)	1,054,504,191		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		36,804,621	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	7,525,000
		施設整備等寄附金収入	0
		設備資金借入金収入	0
		固定資産売却収入	39,630
		その他の施設整備等による収入	0
	施設整備等収入計(4)		7,564,630
	支出	設備資金借入金元金償還支出	12,060,000
		固定資産取得支出	14,934,980
		固定資産除却・廃棄支出	0
		ファイナンス・リース債務返済支出	0
その他の施設整備等による支出		0	
施設整備等支出計(5)		26,994,980	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-19,430,350	
その他の活動による収支	収入	長期運営資金借入金元金償還寄附金収入	0
		長期運営資金借入金収入	0
		長期貸付金回収収入	0
		投資有価証券売却収入	0
		積立資産取崩収入	0
		その他の活動による収入	0
		その他の活動収入計(7)	
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	0
		長期貸付金支出	0
		投資有価証券取得支出	0
積立資産支出	30,000,000		
その他の活動による支出	0		
その他の活動支出計(8)		30,000,000	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		-30,000,000	
予備費支出(10)		0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-12,625,729	
前期末支払資金残高(12)		609,722,491	
当期末支払資金残高(11)+(12)		597,096,762	

平成 29 年度 児童発達支援施設 桐友学園事業報告概要

平成 29 年度は、児童福祉法改正後、満 18 歳以上の在籍者の障害者福祉サービスへの移行の促進を目標として積極的に移行支援を行った年度でした。また、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、障害児相談支援事業等の安定的な事業実施をめざしました。

1. 事業の概況

(1) 満 20 歳以上の在所延長規定の廃止に伴い、経過措置である障害者支援施設の該当者が 0 名で 4 月を迎えた。28 年度末に 18 歳を迎えた 1 名と年度中に 18 歳を迎える 2 名の障害者福祉サービスへの移行の促進をはかった。4 月 1 名、11 月 1 名、3 月末で 1 名移行でき退所した。1 名は移行先が決まったが具体的な異動日が決まっていない。

(2) 定員 30 名、現員 27 名でスタートした。

今年度の新規入所は 6 月 2 名、10 月 1 名、1 月 1 名。退所は、5 月 1 名、11 月 1 名、3 月 1 名。各月 1 日の年間在籍率は 93% でした。

・千葉県 定員 15 名 現員 26 名(措置 23 名・契約 0 名) 3 月 31 日現在

・東京都 定員 15 名 現員 3 名(措置 2 名・契約 1 名) 3 月 31 日現在

一時保護委託は、年間 6 名を受け、総日数 578 日、受け入れた。

○ 年間在籍数 (毎月 1 日現在)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
千葉	24	24	25	25	25	25	26	25	25	26	26	26	302
東京	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	35
計	27	26	28	28	28	28	29	28	28	29	29	29	337

(3) 運営費は措置費、施設給付費と請求等事務が継続した。

サービス区分	収入決算額	支出決算額	当期資金収支差額	当期末資金残高
桐友学園	202,358,761	246,268,722	-43,909,961	76,951,677

福祉・介護人材処遇改善事業の申請・適用して月額 10,000 円から 15,000 円に変更し手当支給の改善等を継続した。

(4) 職員体制では、児童発達支援管理責任者の配置、小規模グループケア加算等により職員増を図り、生活支援部の寮体制は 20 名、地域支援部 9 名、非常勤嘱託 8 名で運営した。

(5) 生活支援部門では、4 寮体制の小規模な家庭的なノーマルな生活を目指し、自分で自分の暮らしを創る支援方法を実践している。今年度も行動障害、被虐待児童等のこころの育ちやケアに対する配慮を要することが多くなり、発達支援・人格形成に向けた療育の方法・技術等の向上に努めた。

(6) 施設整備等の事業は、各寮クロス張替、プレハブ指導室の床、壁の整備工事を行った。

(7) 地域支援部の事業は、児童発達支援事業の幼児療育「さくらんぼ」定員 10 名、放課後等デイサービス事業は学齢期あそびクラブ「わくわく」定員 10 名として継続した。また、「ことばの教室」、「あそびの教室」等の発達支援・療育相談、柏市南部地区を中心に幼児健診からの療育の支援を継続している。短期入所事業「こども生活支援センターきりとも」空床・併設型(定員 3 名)は、今年度も一時保護委託の長期利用児童が多く、また、入所児童の行動問題の対応に苦慮し短期入所利用を断ることがあり、実績が例年より少

なかった。

- (8) 障害児等療育支援事業は、千葉県及び柏市の指定を受け、療育相談、幼稚園等の巡回支援を実施した。保育所等訪問支援事業は支給決定の利用児童が1名のみで実績は少なかった。障害児相談支援事業の利用支援計画の作成も本格的にスタートし79件の契約・計画作成をした。
- (9) 児童の権利擁護、施設の運営の適正化を図るため苦情解決の仕組みの充実、第三者評価の充実、自己評価点検の継続、サービス改善運動の充実を図っている。県内の児童施設における虐待・死亡事件を受けて、これらの課題についての継続検討を行った。

平成29年度「こども地域支援センターきりとも」関係事業報告

○ 地域支援関係事業の資金収支決算状況(経理区分間の収支も含む)

さくらんぼ・わくわく・短期入所事業・事業の経常活動収支は、以下のとおり決算した。

サービス区分	収入決算額	支出決算額	当期資金収支差額	当期末資金残高
児童発達支援事業(Ⅱ)	28,806,340	28,553,869	252,471	31,927,308
放課後等デイサービス事業(Ⅲ)	31,190,802	30,118,950	1,071,852	42,954,636
短期入所事業(Ⅳ)	479,823	49,085	430,738	9,785,671
相談支援事業(Ⅰ)	1,267,207	0	1,267,207	5,162,211
保育所等訪問支援事業(Ⅴ)	88,096	7,800	80,296	240,693
計	61,832,268	58,729,704	3,102,564	90,070,519

相談支援事業報告

○ 相談支援事業の実施状況

- ①外来療育相談 千葉県 9件 柏市 17件
- ②施設支援一般事業 千葉県 0件 柏市 29件
- ③こども療育相談センターきりともの児童利用支援計画作成は79件のみ。

児童発達支援事業「こども療育センターきりとも『さくらんぼ』」事業報告

○定員10名 日時 月から金曜日 9時30分から14時00分を基本として実施

○実施日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	11	11	12	14	13	14	15	16	16	16	17	20	175
開所数	17	21	24	22	25	20	22	21	21	18	20	22	253
延べ人数	149	170	212	185	139	182	200	217	195	186	201	217	2,253

・年間実人数 21人、開所日253日 延べ通園数2,253人 1日平均9人

○卒園後の進路 卒園した児童は5名。普通級1名、特別支援学級へ2名、特別支援学校へ2名就学した。

放課後等デイサービス こども療育センターきりとも「わくわくクラブ」事業報告

○定員10名 基本時間は平日の放課後14時30分から17時、学校休日9時から17時まで

○利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用人数	53	57	60	58	58	62	60	59	57	56	59	50	689
開所日数	24	26	26	26	27	26	26	24	25	23	24	26	303
延べ人数	200	233	244	239	209	239	235	228	214	188	205	217	2,651

□ 個別療育

○ことばの教室「こと・コミ」

・ 月1～2回の個別指導(1単位1時間)を実施 担当 言語聴覚士・臨床発達心理士

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	15	14	14	15	18	18	11	18	19	17	19	20	198
利用数	29	28	27	26	33	33	29	34	33	40	35	39	386

・ 就学グループ指導(言語聴覚士・心理士による SST 中心に実施)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	5	7	7	5	6	7	7	7	6	7	7	7	78
利用数	26	34	37	31	24	30	44	33	33	26	32	33	383

○あそびの教室「すくすく」

・ 月4回(木・土曜日)の感覚統合訓練を中心に個別指導(1単位1時間)を実施

・ 担当 作業療法士

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	7	11	10	13	9	10	9	8	10	8	11	9	115
利用数	11	28	27	16	13	18	22	19	23	18	17	19	231

○音楽教室

・ 月3回 音楽活動を通じた個別・集団指導の提供。

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	3	3	3	3	3	2	3	3	4	3	2	2	34
利用数	28	25	29	25	17	16	28	31	26	28	19	24	296

短期入所事業「こども生活支援センターきりとも」事業報告

短期入所事業は、空床+併設型(定員3名)で実施しているが、平成29年度は県内児童相談所からの一時保護委託が多く、短期入所利用での実績が少なかった。

○ 利用実績

・ 利用実人数 実人数6名 延べ9人 53日利用 利用率4.8%

・ 一時保護委託 実人数7名 延べ386日 合算利用率439日 40.0%

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	2	0	0	2	1	2	1	0	0	0	0	1	9
日数	7	0	0	7	3	17	16	0	0	0	0	3	53

市町村別

	実人数		実人数		実人数
柏	3	我孫子		八千代	
松戸	3	野田		江戸川	
流山		船橋			

保育所等訪問支援事業「こども療育センターきりとも」事業報告

支給決定にあわせて1名実施し、6回行った。

以上

3. 保護者向けアンケート（放課後等デイサービス事業） 配布 60 名 回収 40 名

			はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見
環境・体制整備	①	子どもの活動のスペースが確保されているか。	36	4	0	
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか。	39	1	0	
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか。	30	10	0	・わからない
適切な支援の提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか	36	3	0	・無回答1 ・今年度の専門職のお話はとても分かりやすく、我が子の姿も的確にとらえた上での支援で親も大変勉強になりました。 ・利用していない
	⑤	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	36	3	0	・利用していない ・おかしなデコレーションなど協力して手先も使うプログラムもあり良かったです。
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	6	21	9	・無回答3 ・よくわからない・わからない・デイ利用していないため不明 ・個人指導の OT・MT なので今のままでいいと思います。 ・月1のグループ療育のみの利用なので。 ・利用していない ・ボーリングやカラオケ、買い物など会出の活動も楽しみにのひとつです。喜んでいました。 ・公園などで他の子どもと関わりがあると聞いて安心しています。
保護者への説明	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	37	3	0	
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解出来ているか	39	1	0	・悩み事はいつでも相談できるので嬉しく思います。 ・活動のフィードバックや支援計画の説明や発達検査の結果説明などいつも丁寧にむきあってくださりありがとうございます。
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	37	3	0	・悩み事はいつでも相談できるので嬉しく思います。 ・活動のフィードバックや支援計画の説明や発達検査の結果説明などいつも丁寧にむきあってくださりありがとうございます。
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	15	17	6	・無回答2 ・よくわからない・わからない・利用していない

					<ul style="list-style-type: none"> ・今のままでいい ・先輩お母さんたちのお話を聞ける機会があると嬉しいです。 ・今は親同士知り合いなので連携が取れていますが今後の保護者同士の連携がどうなっているのか分からない ・待合室で情報交換できるのがありがたく思っております。 	
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、鯛硫黄体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	24	16	0	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情を言ったことがないのでわからない ・苦情になるようなことがない為。ただ、もしあっても適切に対応してもらえるとと思っています。 ・苦情はないような・・・どうなんでしょう。
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	33	9	0	<ul style="list-style-type: none"> ・療育が中止になる時は必ず連絡がほしい。
	⑬	定期的に会報やホームページ等で活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	16	19	2	<ul style="list-style-type: none"> ・無回答 2 ・よくわからない
	⑭	個人情報に十分注意しているか	39	1	0	
満足度	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアルを策定し保護者に周知・説明しているか	15	22	2	<ul style="list-style-type: none"> ・無回答 1 ・月に1, 2度しか参加できないのでよくわかりません。 ・分からない ・月に一度しか通所していないので訓練等がどのように行われているのか把握できていません。 ・月1利用なので・・・
	⑯	非情さ以外の発生に備え、定期的に避難、救出、その他の必要な訓練が行われているか	17	19	2	<ul style="list-style-type: none"> ・無回答 2 ・よくわからない ・月に1, 2度しか参加できないのでよくわかりません ・今までの利用の中でその時と重なったことがないため。 ・月に1度しか通所していないので訓練がどのようにおこなわれているのか把握できていません。 ・月1利用なので
	⑰	子どもは楽しみにしているか	38	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・気分にはナミはありましたが、毎回「楽しかった」と言っています。 ・いつも楽しみに通わせて頂いています。
	⑱	事業所の支援に満足しているか	37	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・回数が増えればと思います。 ・先生方がよく見てくださって安心でした。アドバイスもためになりました。生活スキルもアップしたように思います。 ・いつも丁寧に子どもにも保護

						<p>者にも向き合ってくださいありがとうございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々とお手数をおかけして申し訳ございません。私自身に気分の波があり不安定ですが、いつも見守って助けていただき、感謝しております。これからもよろしく願いいたします。 ・子どもの状態に応じてきめ細やかに支援頂いて大変感謝しています。これからもよろしく願いいたします。家族も支えて、助けて頂いて桐友さんのお陰でここまでやってこれていると思っています。いつもありがとうございます。
--	--	--	--	--	--	---

4. 事業者向け自己評価表（常勤職員 4名）

			はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	3		1	10人入ると狭い
	②	職員の配置数は適切であるか	3		1	曜日によっては不足
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切に	3	1		スロープや階段に手すりがついて配慮されている
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	2	1	1	活動計画について職員間で話し合い設定し、振り返りも行うようにしている 時間がない
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	4			
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	3		1	まだ
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	1	1	支援課に第三者が来ない
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	1	2	1	外部への研修にはいくことができていないが、施設内の勉強会に参加するようにしている デイサービスのみの研修は行っていないがサービス向上の研修は実施している
適	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4			
	⑩	子どもの適応行動の状況を図る		1	2	ツール化はされていない

切 な 支 援 の 提 供		ために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか				
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	3	1		活動計画を作成し活動を行っています 時間がなくできない
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	3	1		
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3	1		休日の課題設定はしていない
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	3		1	そこまではできていない
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	3	1		事前に活動グループ分け、対応職員を計画表に記入して活動を行っている できる日とできない日がある
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	1	2	1	打合せという形で必ず振り返りを行っているわけではありませんが、気付いた点は職員間で話し合いはできていると思っています 当日の振り返りを行えず、翌日に振り返りを行うことがある 振り返りはできていない(送迎があるからか?)
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4			
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	4			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	3	1		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	4			
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	4			
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制をととのえているか	2	1		医療的ケアが必要なお子さんの利用は現在なし
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	1		同じ法人内の児童発達支援事業の幼児通園を利用していただいていた児童に対して情報共有はできていると思う
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、	2	1	1	必要があればおこなう

保護者との連携		それまでの支援内容等の情報を提供等しているか				
	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	2		1	
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	2	1	近くの公園に遊びに行ったときに近所の子どもがいたら一緒に遊ぶ機会はあります 近隣の公園では地域の子どもと接し遊ぶ時間がある 交流はない
	②⑦	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	3			
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者に伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	3	1		できない家庭もある
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	2	1	1	個々に助言は行っていない
保護者への説明責任	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	4			
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じて、必要な助言と支援を行っているか	4			職員間で話し合い、適切な助言ができるように心がけている
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	1		
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4			
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	1	1	2	会報等作成していないが日々の連絡著を通して活動内容を伝えて行く。行事についてのお知らせは対象者に配布している 会報はない
	③⑮	個人情報に注意しているか	4			
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の為に配慮をしているか	4			
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業所運営を図っているか	3	1		
非常時の	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	2	2		保護者への周知を行っていない マニュアルは作り、職員間では周知している
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4			毎月避難訓練を行っている

対応	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	2	2		
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者にしぜんにじゅうぶんに説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	2	1	1	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか	4			
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4			1年毎にヒヤリハットを集計して配布している

平成 29 年度沼南育成園事業報告

1 事業運営の概要

平成 29 年度は以下の事業を実施し、各事業における質の向上を目指した。

- (1) 施設入所支援事業は前年度同様、定員 80 人とし運営を行った。支援内容として、食事、入浴、排せつの支援・介護等と自立した生活を目指す支援を行い、ユニットケアの特長を生かした生活の充実とその質の向上を目指した。
- (2) 生活介護事業は、「生産活動」、「創作的活動」、「機能訓練等」の活動を提供し、充実した日中活動を目指して運営を行った。
- (3) 「就労移行支援事業」(定員6人)を新設し4年が経過した。平成 29 年度は更に就労を目指すプログラム等組み入れ運営を行った。
- (4) 就労継続支援B型事業は、定員を前年度に引き続き 20 人とした。また、三つの受注作業を中心とし作業に取り組む、姿勢・気持ち・対人関係等を基本に支援した。
- (5) グループホーム(介護サービス包括型)は計6ヶ所、定員合計 33 人とし(大津ヶ丘、根戸、大津ヶ丘一丁目、柏の葉、根戸の森、大津ヶ丘東)、各ホームとも概ね順調に運営ができた。
- (6) 短期入所事業においては、これまで同様多くの方を受け入れた。

2 平成 29 年度の運営の基本(以下を基本として運営した)

- ① 一人ひとりの利用者の生活を守り、地域での暮らしとライフステージを支援する。
- ② 利用者一人ひとりがかけがえのない存在として尊重され、心豊かな生活が送れるよう支援する。
- ③ 利用者の自主性と自己選択、自己決定を尊重し、利用者の最善の利益を追求する。
- ④ 利用者が地域とふれあい、地域の一員として暮らすことを支援する。また、自立した日常生活や社会生活が営めるよう支援する。
- ⑤ 地域に信頼され、親しまれる施設・事業運営を目指し、地域のニーズに応え障害者福祉の向上を目指す。

3 各事業とその概要

- (1) 施設入所支援事業 定員 80 人・現員 79 人。(平成 30 年 3 月 31 日現在・・・以下同じ)
- (2) 生活介護事業 定員 120 人・現員 114 人。
- (3) 就労継続支援B型事業 定員 20 人・現員 22 人。(施設外就労定員の 7 割・・・現員 9 人)
- (4) 就労移行支援事業 定員 6 人・現員 3 人。
- (5) 短期入所 22 床 + 所定員に対する空床分。
- (6) グループホーム (グループホーム大津ヶ丘)(介護サービス包括型)
- (7) 地域生活支援事業は、以下の 2 事業を行った。
 - ① 相談支援: 柏市、松戸市、流山市、野田市からの委託。
 - ② 日中一時支援: 柏市、松戸市、流山市、野田市からの委託。
- (8) ジョブコーチ(就労援助者事業) 独立行政法人「高齢・障害者雇用支援機構」から受託して、事業を行った。柏市ジョブコーチ事業も受け支援を行った。

4 運営、支援体制

①職員体制

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

		基準数	現員数			基準数	現員数
事務・管理部門	施設長	1	1	生活介護	サービス管理責任者	4	4
	事務員		4.1		看護師	60.9	1
	栄養士	1	1		生活支援員	(38.2)	63.2
	調理員		委託	就労B	生活支援員	2.8	6
	医師		(1)		職業指導員		
	業務		3		目標工賃達成指導員	1	
	その他		1.5	就労移行	生活支援員	2.1	2.1
					職業指導員		
			生活支援員				
小計		2	10.6	小計		70.8	77.3
グループホーム	サービス管理責任者	2	3	相談	サポートセンター沼南		4
	大津ヶ丘	世話人 0.8 支援員 0.3	1.1				
	根戸	世話人 1.2 支援員 0.6	1.8				
	大津ヶ丘1丁目	世話人 1.4 支援員 1.4	2.8				
	根戸の森	世話人 1.2 支援員 1.0	2.2				
	柏の葉	世話人 0.8 支援員 0.2	1				
	大津ヶ丘東	世話人 1.2 支援員 0.9	2.1				
小計		13	14	小計			4
				合計		85.8	105.9

※現員数は常勤換算数

- ② 職員研修 施設内での研修の他、日本及び千葉県知的障害者福祉協会、東京都社会福祉協議会、千葉県、柏市等の主催する研修に参加した。
- ③ 防災体制(児童施設を含む全園活動) 年間の防災、避難活動を計画し、毎月1回避難訓練を実施した。このうち夜間訓練は6、7、9、10月の4回。8月30日は大地震を想定して、従来と同じ発災対応型地震総合訓練に加えて継走電話による職員の招集訓練も実施した。また定期的に設備、機器、器具の整備・点検等を実施した。
- ④ 実習生の受け入れ 次代の社会福祉における人材育成に資するため、20校、49人を受け入れた。延べ受け入れ日数は677日であった。
- ⑤ ボランティアの受け入れ 地元沼南ボランティアをはじめとして、多くのボランティアの皆さんにご協力いただいた。延べ291人。(児童施設と共通部分あり)
- ⑥ 第三者点検評価委員 法人単位で3人の方に委嘱し、毎月一回定例会を設けるとともに、施設内視察・見学をしていただき利用者の相談にのって頂いたり、課題点を指摘して頂いたりした。これらに基づいて支援内容の向上、環境の整備等を図った。また法人単位でサービス向上委員会を設けるとともに、成人施設単位でもサービス向上委員会を中心にして利用者のサービス向上、権利擁護、虐待防止等、職員が再認識するよう努めた。

障害者支援施設沼南育成園

I 施設入所支援

1、利用者の状況

①新規入所 2 ②退所 2(死亡退所 2) ③在籍数 79 人 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

④年齢構成

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計	出身(都道府県)
男性	2	9	20	12	9	1	53	千葉 51(男 34・女 17)
女性	1	0	4	11	10	0	26	東京都 27(男 18・女 9)
計	3	9	24	23	19	1	79	静岡県1(男)

2、施設入所支援事業利用者の支援体制 (定員 80 人、現員 79 人)H30/3/31 現在)

棟編成 居住棟建物の構成に従って5棟(11 フロア、各フロアは8人～10 人の個室ないし二人室のユニット)体制で援護・支援体制を整えた。(1b 棟は主たる短期受入棟)

1a(男)18 人	1b(男女)3 人	2a(男)17 人	2b(女)17 人	B3(男女) 24
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

3、支援内容

(1)日常生活支援

- ① 健康管理 日常的健康管理の他、通院、年2回の定期健康診断、各科検診等を行い健康維持、管理に努めた。脳波検査等必要な人は個別に検査等を受けた。
- ② 食生活、睡眠、更衣、入浴等、必要な介護、介助等の支援を行うとともに、生活環境条件を整え、必要に応じて日常生活及び社会生活の自立を図る支援を行った。

(2)余暇、行事、文化的活動支援

日常的な余暇支援の他、個別または小グループによる外出、忘年会等棟単位における行事、宿泊・日帰り旅行、桐の花祭(家族同伴行事)、納涼祭、収穫祭等施設単位での行事、きりとも祭、もちつき大会等全園(児童・成人合同)単位での行事を実施した。
また、手をつなぐスポーツのつどい、地域行事など施設外行事にも参加した。

II 生活介護事業 定員 120 人、現員 114 名(平成 30 年 3 月 31 日現在)

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計	出身(都道府県)
男性	5	15	26	13	12	2	73	千葉 86(男 53・女 33)
女性	2	4	10	13	12	0	41	東京都 27(男 18・女 9)
計	7	19	36	26	24	2	114	静岡県1

- 1、利用者の基本的な生活(入浴、排せつ、食事、更衣、睡眠等)の介護、支援を行い、創作的活動、生産活動等の機会を適切に提供して知的障害者とその能力と適性に応じて自立した日常生活または社会生活が営めるよう支援した。
- 2、日中の主たる活動である「生産活動」、「創作的活動」、「身体機能・運動機能、日常生活動作等の機能維持・向上のための活動」は次のとおりとした。

活動単位	活動内容
生産	Eワーク班 空き缶リサイクル・公園清掃・作品創り:牛乳パックの再利用(古紙からのハガキ等作成)。

活動	室内リサイクル班	主として廃電線の被膜を取り除いて銅線を取り出し、資源の再利用に役立てる作業等。その他レアメタルのリサイクル等。
	農耕班	園敷地外の2か所の畑、ビニールハウスで葉物や根菜等の野菜を生産し、それを販売した。
創作的活動	さをり班	さをり織り機を用いて織物を作成し、これ素材にして壁掛け、財布等の製品を作成。牛乳パック、古紙からハガキ等を製作。手指機能を高めたり、維持したりすることにも役立てた。
	手工芸班	ドアストッパー、ネームプレート等の木工製品を製作する作業。他にリモコンの解体作業も一部行う。
機能訓練	基礎訓練 (3グループ)	身体機能、運動機能等の低下を防ぎ、健康を維持するための活動(歩行、機能訓練)、音楽リズム(療法)、リラクゼーション等を行う。学園車(マイクロバス等)で園外に行き、歩行訓練、社会参加活動等を行った。

※ 収益の還元 生産活動作業によって得た収益は、必要経費を除いて利用者に工賃等として還元した。

3、文化的活動支援「余暇、外出、買い物、レクリエーション、季節行事、招待行事、日帰り旅行、小グループ単位での外出等(食事、買い物等)」。

III 就労支援系事業

1、就労移行支援事業 (定員6人、現員3人)

- ・平成 29 年4月より1年間延べ利用者は 7 人。
- ・原則2年間という期間の中で一般就労を視野に入れた訓練・支援を行った。
- ・一般就労につなげられるよう、求職活動を初めとする作業支援、就労に必要な知識・姿勢を訓練・支援し、社会の一員として職業的自立が図れるよう支援した。
- ・作業支援は就労継続支援事業と同じく受注作業を主に、①塩ビパイプシール貼り作業、②ゴミ袋加工作業等を行った。
- ・平成 29 年度、利用者の就職者・・・2 名(女性 2 名)

2、就労継続支援B型事業(定員 20 人、他に施設外就労)

- ・平成 30 年 3 月末の利用者現員は 25 人。(男性 17名、女性 8 名)
- ・新規利用者 2 名を加え、平成 29 年度は 28 名でのスタート。年度途中での新規利用者及び退園利用者については、新規利用者 2 名、退園利用者 5 名の状況であった。
- ・施設内においては、就労の機会(製袋作業及び塩ビ管作業)を提供し、実社会における就労の機会に結びつくよう、作業技能、持続力、作業態度、協調性等および対人関係等の支援を行った。

3、施設外就労

「施設外就労」に関しては、29 年度同様、2 社の企業(衣料・ドラッグストア関係)にて実施した。内容としてはどちらも物流関係の仕事である。衣料関係の企業は、昨年度より会社の都合によりつくば市から八千代市の物流センターへ移転し、会社が用意する送迎車にて通勤した。施設内、施設外とも就労につながるよう自己評価、就労に必要なマナーの習得などを支援した。また、作業により得た収益は必要経費を除いて工賃として還元した。

居宅支援事業部門

I 短期入所事業

利用者が可能な限りその地域において生活が継続できることを支えるために、利用者に対し短期的な施設利用を提供して、日常生活上の支援、日中活動の支援を行った。

- 1) 定員 宿泊利用 22 人(床)および空床型(入所の定員に充たない数)
- 2) サービスの内容
 - ①日中活動の保障 在宅時の活動を継続、維持するためのサービス
 - ②施設(沼南育成園)内活動の保障 沼南育成園作業への参加
- 3) 職員体制 支援職員 11 名(入所部との兼務)、送迎専任 1
- 4) 利用者エリア 柏市、松戸市、我孫子市、野田市、鎌ヶ谷市、印西市、東京都近隣区

II グループホーム大津ヶ丘

介護サービス包括型とし 6 ホームを運営し、平成 29 年度についても、概ね順調に事業運営ができた。大津ヶ丘住居(4名、男性)、根戸住居(6名=男性)、大津ヶ丘1丁目住居(7 名=女性)、柏の葉住居(4名=男性)、根戸の森住居(6名=女性)、大津ヶ丘東住居(6名=男性)計 33 名(男性・・20 名 女性・・13 名)。

日中の活動先は、沼南育成園生活介護事業 6 人、就労継続支援B型事業 8 人、青和園 3 人、他事業所 9 人、職場(就労)7 人となっている。

III サポートセンター沼南(相談支援事業)

相談の特徴として、軽度知的障害者、発達障害者、精神障害者のうち特に就労されている方、社会生活に適合できない方、障害があるか判断が難しい方などの相談が中心となっている。したがって、今まで以上に企業、司法、教育、医療等との連携が必要であった。そして、本センターの特徴の一つに就労支援があり、定着、新規を問わずこまめな支援を行った。

また、柏市、流山市、松戸市の自立支援協議会に参加。いずれの協議会でも中心的役割を果たした。このように、サポートセンター沼南は日本相談支援専門員協会および千葉県相談支援事業連絡会の活動の中でも重要な役割を担うとともに、相談支援事業全体の向上のため、その役割を務める必要があると考えている。

(1) 特定・一般相談

- ・特定計画相談 271件 一般相談1件(定着 1 件)
- ・計画担当者 H29 年度は4名でスタート
- ・知的障害だけでなく、精神、身体、発達障害も積極的に計画を行った。

(2) 委託相談

1) 生活支援

- ①通院支援 ②引きこもり・不登校支援 ③触法障害者・保護観察者支援 ④通院の付き添い ⑤金銭管理(指導) ⑥特別支援学校卒業者の支援

2) 就労支援

- ①就労している方の会社への定期訪問 ②特別支援学校生の就労実習支援

3) 余暇支援

- ①食事会の開催 ②宿泊旅行 ③日帰り旅行 ④鉄道同好会

4)その他

- ①虐待保護(家庭内暴力) ②相談支援事業の啓発 ③特別支援学級

IV その他の事業

・ジョブコーチ(職場適応援助者事業)

障害者の雇用・就労促進のための事業で職場に適応するまでの一定期間、支援・援助を行う。
沼南育成園でも就労移行支援事業に取り組み、同就労支援センターからの対象者の支援を行うとともに柏市ジョブコーチ派遣事業についても受託し実施した。

□平成29年度 支援対象者 新規支援対象者 10名(男性7名・女性3名)

□フォローアップ(再支援および定着支援) 9名(男性7名・女性2名)

□離職者 0名(平成29年度は離職者無し)

□支援対象事業所 19ヶ所。

①柏市 4 ②野田市 3 ③流山市 2 ④船橋 1 ⑤船橋市 1 ⑥習志野市 1

⑦鎌ヶ谷市 1 ⑧ 埼玉 3 ⑨都内 3

平成 29 年度 柏市立青和園事業報告

柏市立青和園は、柏市より指定管理二期目（平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日 5 年間）を社会福祉法人桐友学園が指定管理者に受託 2 年を経過した。柏市立青和園の実績、経験、伝統を尊重し、当法人が指定管理後に運営した実績も加え、さらに支援、サービス内容を高めることを目指した。

利用者、保護者、地域、地元の方たちとさらに相互理解を深め、柏市、他指定障害サービス事業所、関係機関と連携に努め、地域福祉の向上に責務を果たした。

1 基本指針

- ①利用者の適性、個性等に応じて自立の力を高め、就労を含めた社会的自立を目指し支援を行う。
- ②日々の中活動を中心とした生活がより充実したものとなるよう支援し、利用者が生活している地域において、利用者の望む利用者らしい生活が実現できるよう支援する。
- ③支援にあたっては利用者の人権を守り、人格と個性を尊重し、利用者や家族等の意見や希望を聴取し、これを尊重して支援に反映させ利用者本位の運営を行う。
- ④利用者が自ら物事を決め、選ぶ力を養い問題を解決していく力をつけるよう支援する。
- ⑤地域や他の障害者施設（事業所）、関係機関等との連携に努める。

2 運営体制概況

○利用者構成（平成 30 年 3 月 31 日現在）

生活介護事業定員 21 名現員 20 名		就労継続支援B型事業 定員 29 名現員 26 名		
1 班	2 班	3 班	4 班	5 班
10 名	10 名	10 名	7 名	9 名

○年間の主な行事

月	行事名
4	チューリップ祭り清掃受託 15,16 日・個別面談 8~18 日・柏の葉 S.F 販売 29 日
5	柏の葉 S.F 販売 7 日・すしの日 10 日・ハイキング 19 日
6	利用者集団検診 2 日
7	集団検診事後指導 13 日・親子行事 21 日・柏の葉 1 丁目会販売 22 日
8	3 丁目夏祭り 19 日・緑町夏祭り 19 日
9	柏特別支援学校説明会 6 日・起震車訓練 19 日・合宿 28,29 日
10	広池学園販売 1 日・農業公園清掃 14 日・すしの日 18 日 朋生園祭販売 21 日・柏の葉 A.F 販売 21 日・はくよう祭販売 28 日
11	青和園祭 11 日・きりとも祭 19 日
12	アリオ柏販売 1 日・大掃除 27 日・お楽しみ会 27 日
1	市役所販売 23 日
2	ゆうあいピック駅伝大会 4 日・南柏イオン販売 13,14 日・パレット柏販売 17 日
3	個別面談期間 5~16 日

○生活介護事業 定員 21 名 現員 20 名(平成 30 年 3 月現在)

4 月現員 19 名からスタートし、7 月に 1 名が入所され 20 名となった。最高齢者が 66 歳で健康面に問題なく、本人、保護者の要望で継続して利用されている。利用者、保護者のニーズで送迎を柔軟に行い、利用され活動につなげられる支援を行い対応した。また、通院の相談も受け対応を行った。保護者の方も高齢になり、家庭での生活に課題が出たケースがあり、関係機関と連携して対応を行った。日中の作業を継続できるように支援し、健康面や体力づくりにも力を入れて取組み、ケガなどの事故はなく活動ができた。

(1) 生活介護の利用状況

開所日数：240 日	利用延べ人数：3,800 人	平均利用者数(1 日あたり)：15.8 人
------------	----------------	-----------------------

(2) 事業での取り組み

①生活支援

作業開始に体力向上、機能維持のための時間を設け、ウォーキング、ミュージックケア、体操等のプログラムを実施した。高齢化や疾病により ADL 低下の利用者の増加により個別的に支援の必要が生じた時は、ケース会議で早急に対応した。

②作業支援(室内班・陶芸班)

オフィスフォンの掃除作業(リユース)、近隣公園清掃と、陶芸作品の制作販売を主軸として、利用者の特性に合った作業支援を行うとともに、利用者一人一人に目標設定をして支援を実施した。

③余暇行事

年間行事の他、第一水曜日の午後にクラブ活動、また、希望別による食事会も実施した。生活介護事業では、第一水曜日を除く他の水曜日の午後を選択活動とし、創作活動や利用者自身が望む活動の提供を行った。

④送迎サービス

日中活動の安定した利用を継続するために、利用者の心身の状況に合わせた送迎サービスを提供した。利用者、家族のニーズに合わせて変更、調整して、柔軟な対応を行った。

年齢	30～39	40～49	50～59	60～65	65～70	合計
男性	1	6	3	0	0	10
女性	2	5	2	0	1	10
合計	3	11	5	0	1	20

○就労継続支援 B 型事業 定員 29 名 現員 26 名(平成 30 年 3 月現在)

4 月現員 27 名でスタートし、家庭の意向で 6 月末に 1 名退園された。全体では、個々のニーズに合わせた支援を行い、大きな事故等がなく、安定した支援をすることができた。作業の実績も安定し、工賃支給が総支給額に対する月額支給額が 18,000 円台に上がった(昨年度より、月 2,000 円程度アップ)。

(1) 就労継続支援 B 型利用状況

開所日数	利用延べ人数	平均利用者数(1 日あたり)
240 日	5,968 人	24.9 人

(2) 事業全体での取り組み

①生活支援—園内の清掃その他、役割に関しても目標が達成できるよう個々の支援計画に基づき行った。

②作業支援—個々の能力・体力等を勘案し仕事のプログラムを作成することにより、個々の課題点が抽出でき、その課題がクリアできるよう対応(支援)した。

- ・園芸 - 貸鉢 (観葉植物のリース)・花壇の植込み、移植等園芸全般 (委託) 年 3 回
- ・室内 - のし袋、箱折り、段ボールゴム掛け、ポスティング、タキロンクボタ
- ・施設外作業—企業の倉庫内で、一部の利用者が就労に向けた作業支援
- * その他—農業公園のお祭り等でゴミの仕分けの請負・町内会のお祭り等での販売(野菜等)

③余暇活動—年間行事の他、第一水曜日の午後クラブ活動を実施した。また、希望別による昼食会の実施や近隣のショッピングセンター及び柏の葉公園への散歩等行い、活動の中でゆとりが持てるよう支援した。

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	合計
男性	5	5	5	0	0	15
女性	2	1	4	3	1	11
合計	7	6	9	3	1	26

○平成 29 年度 職員体制表 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

		基準数	現員数	備考
	施設長	1	1	
	サービス管理責任者	1	1	
就労 B	生活支援員	3	4	
	職業指導員		4	
生活介護	生活支援員	3	6	
	看護師	(1)	1	非常勤
合計		8	17	

○組織、運営

指定管理者仕様書に従い職員数を配置し、設置者である柏市と密に連携を取り法令等において規定されている障害福祉サービスの実施に関し、運営管理、組織形成を行った。また、法人によるサポート体制で支援・援助技術等に関する相互情報交換、研修、会議等を行い、相互の知識・技術の向上に資した。法人職員会議、法人職員を対象に法人に係る事項を検討、討議した(年 3 回)。法人運営会議、法人に係る運営について協議、連絡調整を行った(2 カ月に 1 回)。会議、月 1 回のケース会議 (毎月の休園土曜日) に行った。また、職員の育成を図り、専門的知識、技術を向上させるために内外部の研修の参加を行った。

○個人情報保護

柏市個人情報保護条例、社会福祉法人桐友学園個人情報保護に関する規定等の個人情報の取り扱いに関する事項を遵守し、個人情報及び業務上知り得た情報について適正に取り扱った。

○苦情解決

提供した障害福祉サービスに関する利用者又はその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応

するために、苦情を受けるための窓口を設置し、苦情解決責任者を施設長とした。

利用者又は家族からの苦情に関して、市町村が行う調査に協力するとともに、市から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行った。

障害者自立支援法に基づく指定障害者支援施設等の人員、設備及び運営に関する基準に基づいて苦情解決に努めた。

苦情受付、解決、利用者支援の質（権利擁護を含む）を保障する為、外部委員による第三者点検評価委員会を設置し、問題解決、支援の質の向上を図った。平成 29 年度苦情なし。

柏市サービス向上委員一年 2 回来園 ・ 桐友学園第三者評価委員一年 2 回来園

○権利擁護・虐待防止

外部虐待防止関係研修の参加に積極的に取り組んだ。会議内部研修を行い、権利擁護・虐待防止に意識を高め、理解を深めた。虐待についての相談はなかった。

○施設整備

建物の老朽化による建築物、機械系、電気系、防災設備関係の修繕箇所が増えてきている。作業、活動の快適さや利便性、安全性を保てるように設備等の日常、定期点検を行い、不備のある箇所は迅速に補修、修繕を行った。整理整頓、清掃による美化に対する環境整備も努め、安全・心地よい生活を送れるように取り組んだ。